

[第2回] 学校運営協議会

と き／令和元年10月21日（月） 19：00～21：00

ところ／南が丘小学校図書室

■ 報告事項

（1）令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果および分析の報告

6年生を対象として4月18日（木）に実施された見出しの調査について、小学校の担当者から報告があり、その後質疑を交わした。概要は、次のとおり。

- 昨年度に引き続き、全ての教科において津市、三重県、全国の平均正答率を上回っている。
- 国語の「書くこと」領域の正答率が全国平均を上回っている。
「記述式」で解答する問題の正答率も全国平均を上回っている。
- 算数では、全ての領域において全国平均を上回っている。記述問題は全国平均を上回っており、昨年度に比べて正答率が上がってきているものの、いくつか課題がみられた。

上の結果を受けて、今後次のような取り組みを進めていくことが説明された。

〈国語〉

昨年に引き続き、「書くこと」の指導を充実させる。複数の資料から、重要となる文を見つけ、言葉や文を引用して、字数制限などの条件の下で書くことを指導していく。また、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、相手に伝わるように詳しく書くことに重点を置いて指導していく。

〈算数〉

記述問題にいくつか課題がみられるため、言葉や式を用いて、自分の考えを友だちに説明したり、ノートに表したりする活動を繰り返し行っていく。また、内容理解とともに、説明のための用語、手順などを身につけさせ、本校児童の弱みにつながる学習単元を丁寧に指導していく。

〈全教科を通して〉

これまでと同様に、「めあて」と「振り返り」を意識した授業を行うとともに、「まとめ」「振り返り」まで見通した授業の展開をしていくようにする。

振り返りなどを活用して、「授業がわからない」児童を把握し、「わからない」といえる雰囲気、「わからないから教えて」という、児童の主体的な学びにつなげていく。

児童質問紙調査の結果（一部紹介）

肯定的回答が高かった項目や 本校児童の強み	・自分には、よいところがある。 89.7% ・将来の目標や夢を持っている。 94.5% ・人の役に立つ人間になりたい。 99.2% ・学校の決まりを守っている。 97.6% ・はじめはどんな理由があってもいけない。 99.2%
--------------------------	---

肯定的回答が少なかった項目	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業の内容はよく分かる。 否定的回答 6人 ・国語の授業の内容はよく分かる。 否定的回答 12人 ・学校の授業以外にどれくらい勉強しているか 30分以下 28人
---------------	--



(2) 学校経営方針「8つの柱」の進捗について

本校では教育目標の実現をめざして、8つの重点取組を進めている。上半期のそれぞれの取組状況について学校長より報告され、その後質疑を交わした。

○地域とともにある学校

ホームページや学校だよりなどを通して情報発信を行っている。また、学校支援委員会や関係諸団体に呼びかけ、充実した学習となるよう支援を得ている。研修会や職員会議において地域とともにある学校について確認をしている。

○小中一貫教育、保幼小の連携

6つの推進部会や小中合同研修会などを通して、小中一貫教育を推進している。さらに、円滑な接続に向け、就学前教育・保育との交流も行っている。

○英語科教育

新学習指導要領を踏まえた授業の研究や指導計画の改善を図っている。今年度は英語専科がリードしつつ、ALT・VETを生かしたHRT主体の指導実践を構築している。

○授業研究推進

英語科を中心としたコミュニケーション能力の育成を行っている。

○人権教育

人権感覚あふれる子どもの育成と仲間づくりに取り組んでいる。保護者、地域、保幼小とともに連携して取組を進めている。子どもたちの実態把握のため人権に関する意識調査を実施している。

○特別支援教育

個別の指導計画・教育支援計画を作成し、指導計画の内容については学年別に検討を行っている。必要に応じて関係機関等との連携や教育相談を行っている。

○生徒指導

児童会や生活委員会を中心として「生活のきまり」に関する働きかけをしている。あいさつの指標の提示を行ったり、小中合同あいさつ運動を行ったりしている。

○健康安全教育

子どもが自分で身の安全を確保できる取組や給食を中心とした食教育を行っている。

■協議事項

(1) 学校自己評価（めざす子どもの姿と達成状況評価シート）の中間報告について

昨年度より、学校自己評価の在り方を抜本的に見直すことになった。「何にどう取り組んだのか」という取組の状況ではなく、「子どもたちがどのように変容したのか」という「子どもの姿」を評価の対象へ変更することにした。それにより、取組の成果や課題がより明確になり、学校運営の改善と発展につながることを期待されるためである。

教員の観察による評価と子どもたちへの質問紙調査の結果からは、「Ⅰ② 聴き合い伝え合う子」、「Ⅱ① 進んであいさつする子」、「Ⅲ② ものを大切に使う子」の3点において、両者間の結果に大きな差があることが明らかとなった。これらについては、努力をして取り組みを進める必要がある。

<委員から出た意見>

- ・3つの項目について、教員と児童の評価に差異がみられたのは、教員の評価の仕方が一人ひとり判定しているのではなく、クラス全体の印象として判断しているからと考えられる。また、学習・生活振り返りシートの児童への質問項目が、複数の観点を組み合わせているため、児童は回答する際、できていない観点到合させたと考えられる。
→質問項目を分けて、児童の答えやすさ優先で作成し、集計の時点で目指す子どもの姿に反映していけるよう工夫していく。
- ・アンケートなので年間を通して同じ項目にすべきだが、学期ごとに重点項目のみを質問する方法もあるのではないか。
- ・子どもたちに「できなかった」と思わせるアンケートではなく、子どもたちが「できた」と満足できるアンケートにした方がよいのではないか。



(2) 支援のあり方について

学校運営協議会として、学校の支援のあり方について協議を行った。南が丘学校支援委員会をはじめ、地域の諸団体による支援について協議された。

<委員から出た意見>

- ・南が丘小学校はコミュニティ・ネットをはじめ、学校への支援が充実している。このことにより、子どもたちはより充実した学校生活を送ることができている。
- ・学校がどのような支援を必要としているのか伝えてほしい。

(3) その他

- ・特になし。

以上